研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-137	A-161	20-061	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

The Effect of Alcohol Consumption on Geriatric Trauma Outcomes
高齢の外傷患者の転帰に対するアルコールの影響

執筆者

Teichman A, Perea LL, San Roman J, Arya C, Suthar K, Johnson I, Begum L, Ross SE.

掲載誌

J Surg Res. 2020 Oct;254:364-368. doi: 10.1016/j.jss.2020.05.011.

キーワード	PMID
高齢者、外傷、血中アルコール濃度、後ろ向き研究	32531521

要　旨

目的：
アルコール中毒が外傷患者の転帰に与える影響については統一の見解はなく、特に高齢者に関する報告は少ない。そこで本研究では、高齢の外傷患者におけるアルコールの影響を明らかにすることを目的とした。

方法：
レベルⅠ外傷センターにおける 2015 年 1 月～2018 年 12 月の入院患者を対象に、外傷登録を用いて後ろ向きレビューを行った。患者は若年者（15-64 歳）と高齢者（65 歳以上）、ETOH−群（血中アルコール濃度≦0.10g/dL）と ETOH+群（血中アルコール濃度＞0.10g/dL）に分類した。若年者と高齢者の比較に際し、外傷重症度スコアと受傷機転により傾向スコアマッチングを行った。主要評価項目を死亡率、副次的評価項目を予期せぬ転機・合併症の発生率、入院期間、集中治療室入院期間、30 日以内の再入院とし、Fisher の正確検定あるいは回帰分析により差を比較した。

結果：
対象期間内に 8,754 名（若年者 6,106 名、高齢者 2,647 名）のアルコール血中濃度の記録がある入院患者が特定された。ETOH+群は若年者 1,488 名（24.4%）、高齢者 146 名（5.5%）であった（$P < 0.0001$）。これらの 2 集団におけるアルコールの影響を評価するため、高齢者 285 名に対し、若年者 285 名を傾向スコアマッチングにより割り当てた。死亡率および予期せぬ転機・合併症の発生率は、いずれも高齢者の方が若年者よりも有意に高かった（11.9% vs. 3.5% (P < 0.001), 38.2% vs. 27.0% (P < 0.05)）。若年者、高齢者のいずれにおいても、ETOH−群と比較して ETOH+群の死亡率・morbidity の有意な上昇は認めなかった。

結論：
高齢の外傷患者は、若年者よりも死亡率・morbidity が高いことが示された。一方で、アルコール血中濃度は、高齢者、若年者のいずれにおいても、死亡率・morbidity に有意な影響は及ぼさなかった。